

# 2018年冬カモ科野鳥カウント調査結果

— 県内における生息数の分布図について —

日本野鳥の会埼玉 調査部

## 1. はじめに

調査では20種、11,072羽のカモ科野鳥、そしてカワウ426羽が記録された(『しらこぼと』2018年6月号、8月号)。

今回から、調査員の協力により基準地域メッシュ(=3次メッシュ)単位のカモ科野鳥の数が得られるようになり、生息数の分布状態を図示することが可能になった。これまで生息数を視覚的に実感することができなかったことから考えれば、新しい面が開けたといえるのではないだろうか。

## 2. 分布図の作成

基準地域メッシュ単位のデータを野鳥データベースに入力し、2017年4月の『しらこぼと』増刊号で発表した野鳥分布調査と同様に、データベースから5倍メッシュ(面積約25km<sup>2</sup>)単位でExcel形式の集計データを出力した。次に、そのデータをExcel「ひな形ファイル」に入力し、グラフ作成機能で分布図を作成した。

得られたデータは、5倍メッシュ数で46となった。分布図では、5倍メッシュごとの数を表の6段階の○で示した。

表 凡例と数の関係

凡例	カモ科総数	種数	種別総数
●	800~999	11~12	400~499
●	600~799	9~10	300~399
●	400~599	7~8	200~299
●	200~399	5~6	100~199
○	100~199	3~4	50~99
○	1~99	1~2	1~49

5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の総数の分布は図1に示すとおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は906羽、最少区画は2羽であった。

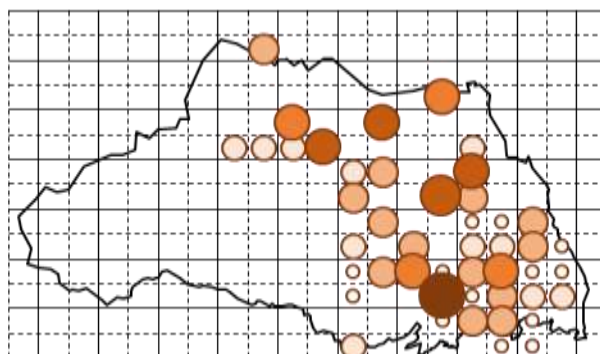


図1 カモ科野鳥の5倍メッシュごとの総数

5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種数の分布は図2に示すとおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は12種、最少区画は1種であった。

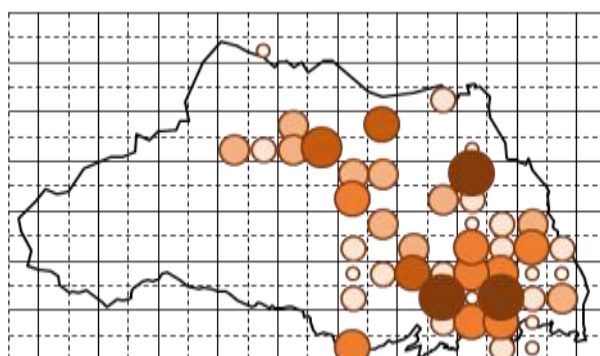


図2 カモ科野鳥の5倍メッシュごとの種数

5倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種別総数の分布は、P. 3~P. 5に示したとおりであった。種名の後の( )内は生息数の範囲と5倍メッシュの区画数である。同時にカウントしたカワウも参考として末尾に示した。

なお、5倍メッシュ区画と市役所、区役所、町役場の位置関係は、図3に示すとおりである。

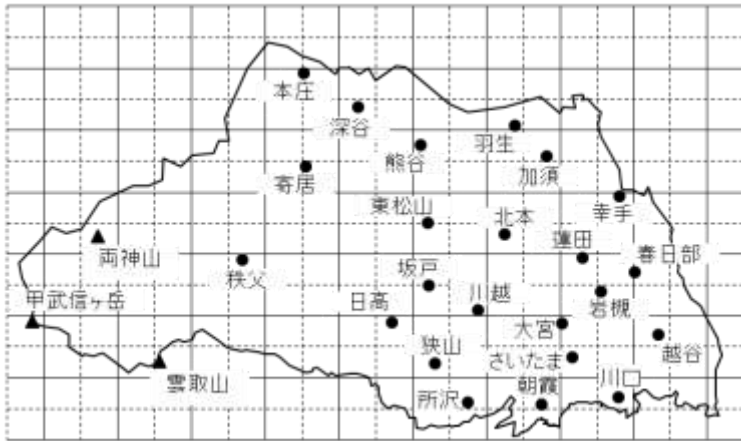
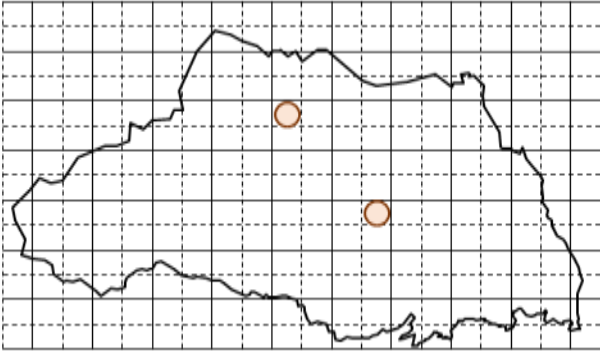
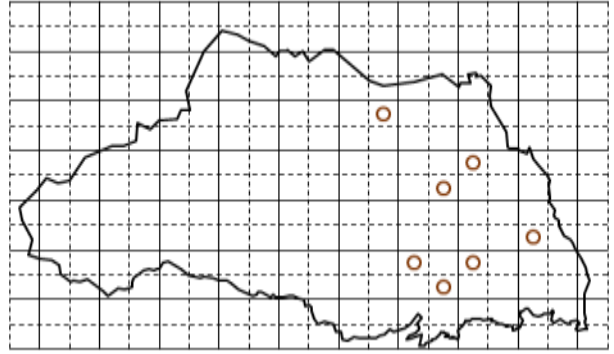


図3 5倍メッシュ区画と主な都市

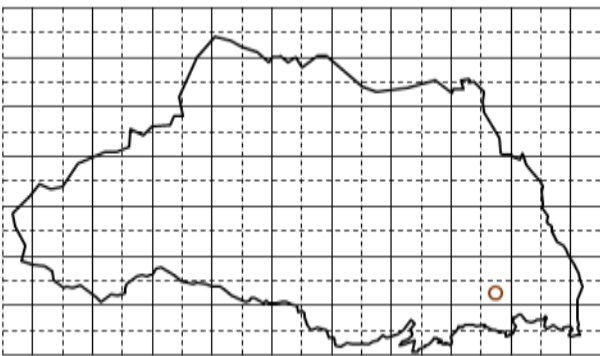
1. コハクチョウ (88~89羽、2区画)



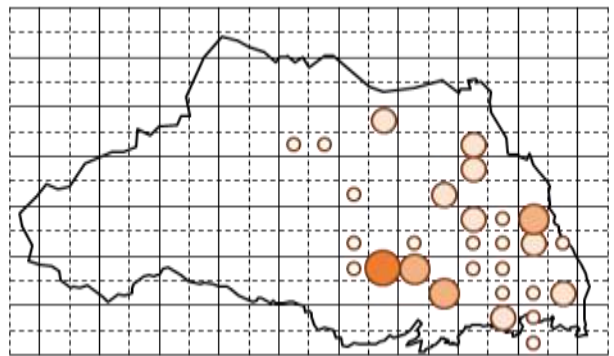
5. ヨシガモ (2~21羽、7区画)



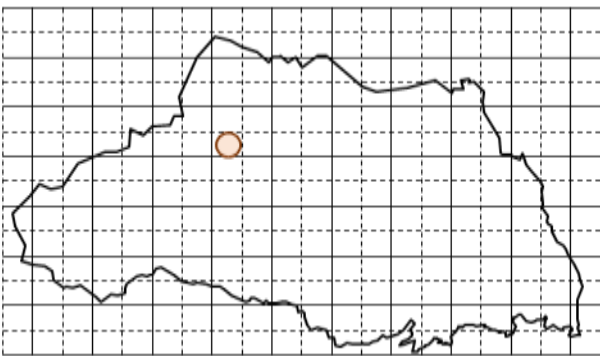
2. オオハクチョウ (3羽、1区画)



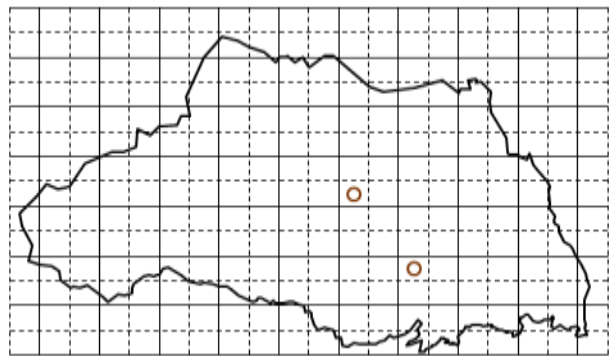
6. ヒドリガモ (1~273羽、28区画)



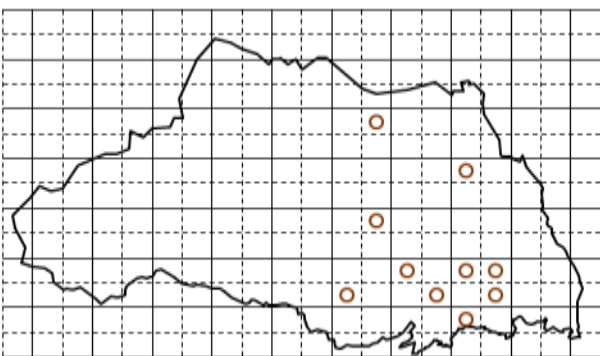
3. オシドリ (80羽、1区画)



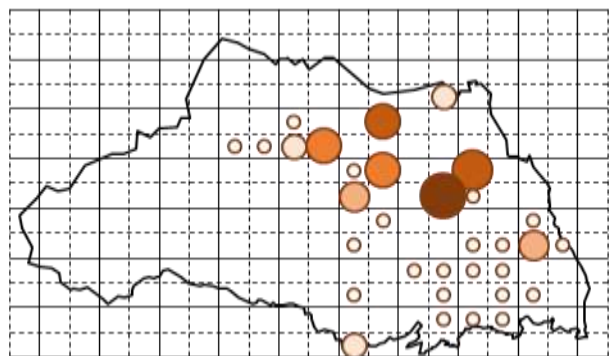
7. アメリカヒドリ (1羽、2区画)



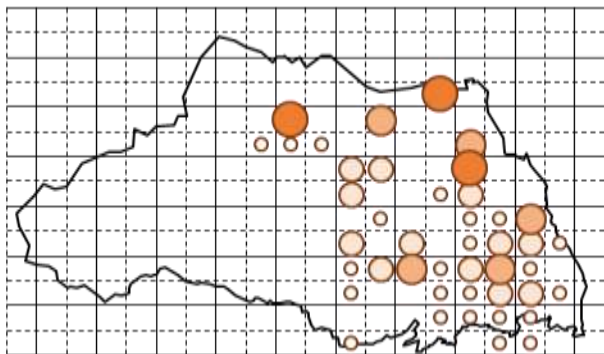
4. オカヨシガモ (1~42羽、10区画)



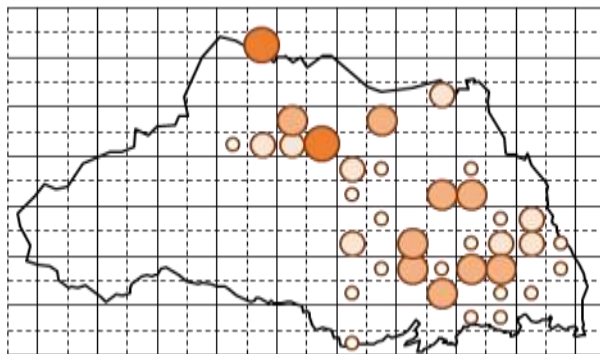
8. マガモ (2~453羽、32区画)



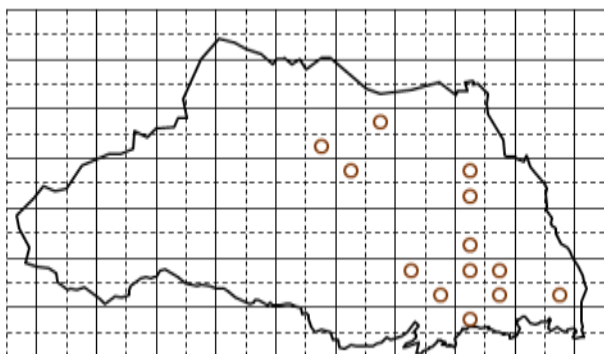
9. カルガモ (2~285羽、43区画)



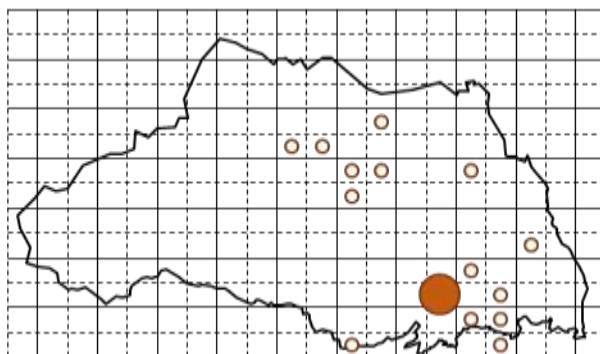
13. コガモ (2~249羽、36区画)



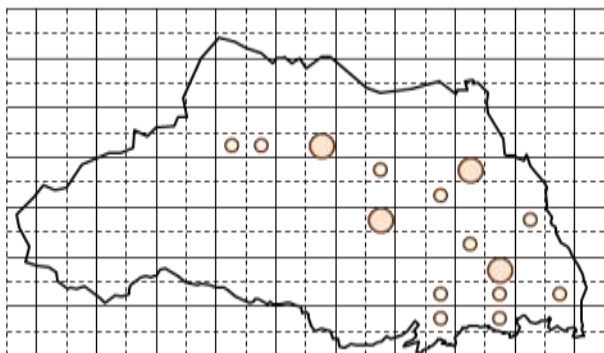
10. ハシビロガモ (1~39羽、13区画)



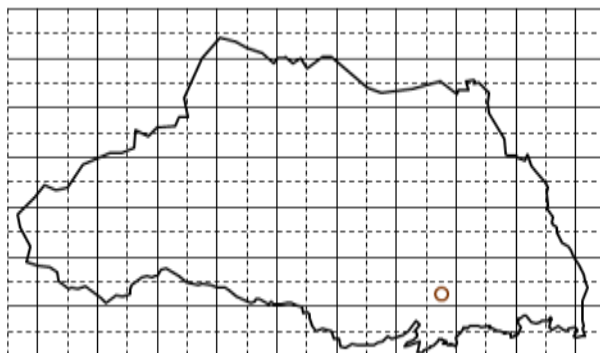
14. ホシハジロ (1~310羽、15区画)



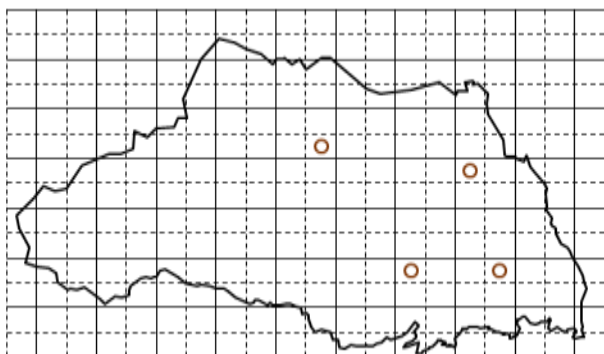
11. オナガガモ (1~88羽、15区画)



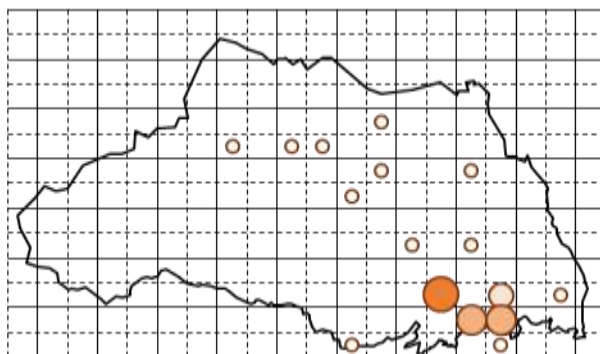
15. アカハジロ (1羽、1区画)



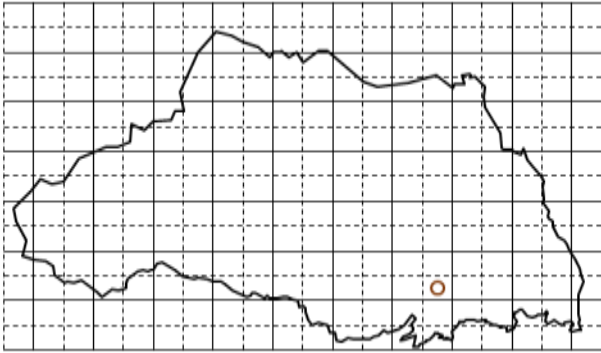
12. トモエガモ (1~3羽、4区画)



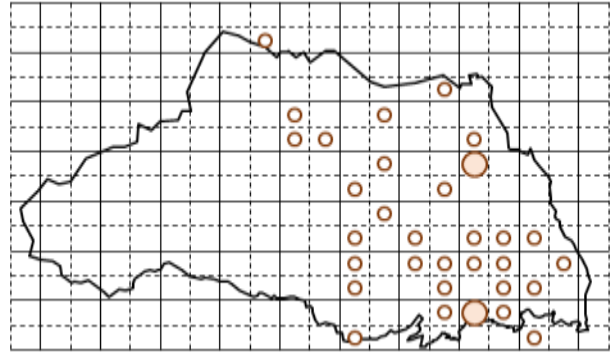
16. キンクロハジロ (1~241羽、16区画)



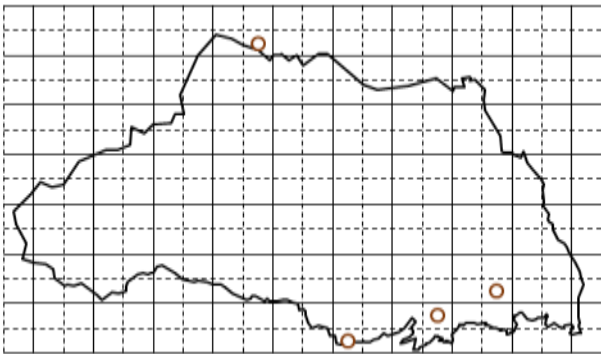
17. スズガモ (3羽、1区画)



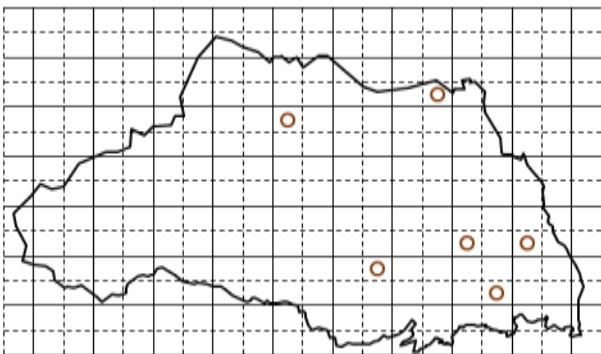
参考：カワウ (1~77羽、32区画)



18. ホオジロガモ (1~17羽、4区画)



19. ミコアイサ (1~7羽、6区画)



20. カワアイサ (1~3羽、2区画)

